

第3回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会

日時：令和2年11月6日（金）午後2時00分～

場所：稲敷市役所本庁舎 3階 331会議室

発言者	発言内容
-----	------

1. 開会

事務局	本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。只今より稲敷市事務事業評価外部評価委員会第3回会議を始めさせていただきます。
-----	--

2. 委員長あいさつ

事務局	それでは、お配りした会議次第に沿って「2. 委員長あいさつ」を委員長、よろしくお願いします。
委員長	それでは、皆さんこんにちは。第3回目となりました。前回かなり様々な議論をしていただきましたので、前回の議論を事務局から整理いただき、今回から出来れば制度構築の議論に入っていきたいと思います。すでにいくつかの資料を事務局にご用意していただいたのと、副委員長からも詳細な試案をいただきましてありがとうございます。これにつきましても後程ご説明いただいた上で、これらをたたき台にして次の第4回に繋げる議論が出来ればと思っておりますのでよろしくお願いします。それでは、本日も忌憚のないご意見よろしくお願いします。

3. 報告

（1）第2回外部評価委員会 議論のまとめについて

事務局	それでは報告の方に入らせていただきます。進行は要綱第6条に「委員長は会議の議長となる」とありますので、委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
委員長	それでは、前回第2回外部評価委員会の議論のまとめにつきまして事務局よりご説明お願いいたします。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。宿題については後程ご説明いただくとして、前回ご議論いただいた廃止と改善についてスクラップアンドビルド、評価対象の考え方、それから評価疲れ、この辺りの項目につきまして何か意見ご質問等はございますか。よろしいですか。一応、本日は前回の内容を踏まえた上でご議論いただければと思いますのでよろしくお願いします。

(2) 議会報告事例調査結果について

委員長	続きまして宿題の部分、議会との関係についてご報告お願いします。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。今のご説明についてご意見、ご質問ございますか。制度として議会に報告しているのは横須賀市くらいですか。
事務局	稲敷市は全協で議会に外部評価の報告をしております。
副委員長	全協は何月ですか。
事務局	2月の全協です。全協前に報告書をお渡ししております。
副委員長	この時は外部評価の案件のみの報告ですか。
事務局	他の案件と合わせて報告しています。昨年度は時期が遅れて2月に総合計画と合わせて報告しました。早い時は、年内に報告したこともあります。
委員長	全員協議会で報告書を配布ということですね。議会から特に意見等は。
事務局	全協の案件として報告はしておりませんので、意見等はありません。
委員長	横須賀の場合、議会報告は事務局の職員が行っているのでしょうか。報告に対し、議会から意見が出たものを評価委員会にフィードバックすることはあまりない感じですか。
コンサルタント	フローを見ると、市民のご意見については内部評価の時点で反映されているようなのですが、議会の議論についてはこちらでは追えなかった状況です。
委員	私は議会との関係に拘りすぎたのかなと反省しています。 一方で、こういう直接のルートでも良いですし、もしくは後の報告でも入ってくるかもしれませんが、内部での決定のプロセスが正当性持つものであれば、議員さんも納得するかと思います。あまり議会との関係性に拘りすぎても、外部評価や行政評価というところの意味合いをはずれてしまうかと思っており、バランス感覚のところで迷っているという感じです。
副委員長	委員ご指摘の通りだと思います。議会との関係は、実行する行政、特に執行部の皆さんが一番良いとする方法を考えていただきたい。
委員長	私も賛成です。やはり外部評価委員はどこまで行っても、選挙で選ばれた正当性はない組織になります。現在の稲敷市が実施している行政評価のフローチャートは外部評価委員で終わっているのですか。
事務局	最終評価が外部評価で終わっております。担当から担当課長、そして管理部門と言われる3担当の判定をして、副市長をトップとする内部評価、その後、一部の事務事業評価を外部評価し、終了しています。
委員長	他の自治体を見ていると、首長含めて庁議レベルで議論しているのです

	よね。首長は選挙で選ばれた方な訳で、外部評価の意見を踏まえ庁議レベルで検討した上で、議会へ報告するフローが良さそうな気はしますね。いきなり外部評価から議会に報告しない方が良いと思います。 他いかがでしょうか。これは後程の議論にも繋がって参りますので、また改めてご議論いただければと思います。
--	---

4. 議題

(1) 外部評価委員会を進める視点・検討ポイントの整理

委員長	次が宿題の2番目です。外部評価委員会の視点・検討の整理です。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。では、今ご提示いただいた検討ポイントについて皆さんいかがでしょう。ご意見・ご質問お願いいたします。
副委員長	意見というより確認ですが、我々に求められているのはPDCAサイクルのチェックの部分だと思います。そのチェックが単なるチェックだけではなく、次の変革に及ぶようなチェックが必要なのではないかと考えます。新たな事業展開が必要である場合には、提案していかないと。これまでの外部評価から一步進んだ外部評価にしてはいかがでしょうか。
委員長	私が気になるのは、外部評価の指摘が見直しにつながらないという問題です。アクションやプランの提案を外部評価委員が行うべきか微妙な部分かと思います。各計画策定時の総合計画審議会と、外部評価委員会は何が違うのか。アクションやプランの主体である行政に参考になるようなチェックをこの外部評価委員会として示し、その後に、担当者レベルで見直し検討するのではなく、しっかりとした役職のある方々がそれを踏まえてアクション、プランに繋げていくのが新しい稲敷市のプランになると思います。
委員	副委員長のご指摘通り、これから新しいものを構築しようとした時、外部評価委員会としてどのようなかわり方ができるかが重要だと思います。 まず、今までの稲敷市では最終的な行政評価が庁議ではなく、外部評価委員会である状況なので、いかに新しく見直す行政評価の実行性を持たせるかが大切になってくるのではないのでしょうか。 さらに、行政評価をし、事業の統廃合が出来れば、今まで費やされていた資源に一定程度余裕が生まれる訳です。今まで振り分けられていた人員とかお金とか時間が、休止・廃止により生まれる資源まで明示しても良い。業務のリソースについて新たなビルドに使える余地があることを見せることで、新しいものを構築することに繋げることが出来ると思います。
委員長	ビルドの部分掘り下げるかは深く議論した方が良さそうですね。次に副委員長からも資料を出していただいている、「整理すべき内容（論

	点)」というのは、今ご説明いただいた検討ポイントの整理に近い部分です。ので、ご説明いただけますか。
副委員長	《副委員長の資料説明》
委員長	ありがとうございます。 試案についてはまた後でよろしいでしょうか。副委員長がすごく丁寧にまとめて下さっていて、例えば整理すべき論点、我々が評価すべきレベル、数、頻度の問題、予算への反映、計画へのフィードバック、先程から議論になっているアクション、プランにどう反映するか、ビルドの部分、議会との連携の部分、先程の検討のポイントの整理の部分について、この委員会で検討すべきだと思います。 その前に、我々は総合計画と総合戦略と行革大綱の3計画と実施計画のしくみを把握してから議論をした方が良いと思いますので、事務局にご説明をお願いします。
事務局	《資料説明》
委員長	手書きの資料をみると、総合計画には政策・施策・取組があってその中に具体的取組があって、事業がぶら下がっている。総合計画の冊子の中で追えるのはレベル3までということですか。
事務局	具体的取組までが総合計画の冊子で追えるところで、その下に、実施計画と言われる部分がぶら下がります。小嶋委員の資料でご指摘の、特定事業が抽出出来るのかという質問については、総合計画・総合戦略・行革大綱と実施計画がすべて紐づけされているので抽出可能です。施策に対しどのような事業がぶら下がっているのかというのは、この調査票の様式になっております。
委員長	小嶋委員がまとめて下さった内容の、さらに下がこれということですね。
事務局	重複している事業もありますので、小嶋委員に調べていただいた350の具体的取組に対して今、実施計画の事業は310あります。
副委員長	教育委員会の事業費に係らない事業はどうしているのですか。
事務局	人件費のみの事業も実施計画事業として計上しています。 実施計画事業はシステムを構築しており、人件費も調査票に含まれて、人件費だけの事業も載るようになっていきます。説明を続けて宜しいでしょうか。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。かなりややこしい仕組みなので、これを頭に入れないと今後の議論はなかなか難しくなって参ります。わからないところはご質問いただければと思います。 3つ確認してよろしいですか。1つ目として、総合計画の「事業」と行

	革大綱の「事務事業」はイコールで良いですよ。2つ目が、赤の四角が事業で310あるということですね。総合計画になくて、行革大綱には載っているものもいくつかある訳ですね。どういふのがあるのでしょうか。
事務局	1つ目についてはイコールです。総合計画になくて、行革大綱にある事業については、定員管理に関する事業が行革の中で謳われているのですが、総合計画の中では謳われていません。
副委員長	職員数ですね、近いものはありました。基本は教育委員会と一般行政とに分けていると思います。行革のメインになる部分ではないかと思います。
事務局	行革大綱に謳われている文言がすべて総合計画に入っているかということ入ってはいないのですが、定員管理に関しては適正な職員数の維持管理に努めますということで入れていますので、記載されております。
副委員長	そこは入っていないとおかしいですよ。
委員長	総合計画には入っていないということですよ。定員管理は事業といっても、予算が付いている事業なのですか。
副委員長	予算はないのですが、計画なのです。定員管理計画ということで、総務省に報告しないといけないので、必ずやらないとならない。
事務局	定員管理計画として作っている自治体もあります。
委員長	何故こんな質問しているかというと、我々が今議論している事務事業評価の対象事業として含まれるものなのか、含まれないものなのかということです。
事務局	含まれます。
委員長	総合計画に入っておらず行革に入っているのはどれくらいですか。
事務局	即答はできませんが、5事業とか10事業とかという数です。
委員長	わかりました。我々が事務事業を評価するといった場合に、どの範囲でやるかということ一応は310という赤い四角ということですね。
事務局	総合計画の事務事業評価は、3年間、外部評価委員会を行いました。総合戦略は有識者会議という外部の組織が、また、行革大綱は懇話会という組織がありましたが、今回3つの計画を一体化したことで有識者会議や懇話会といった、行革大綱、総合戦略の進捗管理は、外部評価委員会で統一し、各会議の要項を整理させていただきました。
委員長	今回わかったのが、総合計画、総合戦略、行革大綱という森、林はみんな異なるということですね。
事務局	事務事業だけ見れば、3計画の具体的事業が1つの実施計画システムに調査票が作成されて、整理されております。
委員長	総合計画的観点に立った森の話、まち・ひと・しごとの観点に立った森

	の話みたいになってしまいかねない。木を見るのは意外と楽ということですね。他の市町村で施策評価が上手くいっていないように見えたのはその辺なのだと思います。
コンサルタント	特に最近は総合戦略も行革大綱も総合計画に合わせて策定するという流れが多くなってきて、総合計画の見直しの際に総合戦略も一緒にというのは多くあります。余計に施策評価というのが難しくなってくるかもしれません。
委員長	内部評価，外部評価のレベルでどこまで出来るか，やるべきかは検討が必要な気がしてきました。他いかがでしょうか。ここでなるべくこの辺の理解について，共通認識を持った上で次の議論に進みたいのですが，よろしいですか。とりあえず進めさせていただきます。

（２）稲敷市外部評価対象事例「都市農村交流事業」を題材として

稲敷市行政評価における改善項目の検討

委員長	次の議題ですが、検討のポイント及び副委員長にお出しいただいた整理すべき論点を踏まえて、具体的に稲敷市の行政評価の改善項目はどうするのかというご意見をいただくということになるのですが、議論の題材としてお示しいただいているのが資料３ということになりますね。稲敷市で今やっている事務事業評価についてご説明いただけますか。
事務局	《資料説明》
委員長	基本計画というのは総合計画と同じと理解して宜しいですか。
事務局	はい。
副委員長	基本構想については P.158 に掲載されています。
事務局	《資料説明》
コンサルタント	補足宜しいですか。調査票に重点プロジェクトという欄がありまして、こちらに位置づけがある・ない、あるものについては空欄の欄にそれぞれの重点プロジェクトの内容が示されます。重点プロジェクトの位置づけがここで分かりまして、現在の調査票では、さらに総合戦略に位置づけがある、行革大綱に位置づけがあるというチェック欄がありますので、そこが紐づいています。
事務局	皆さんにお配りした実施計画の様式は、３年前に初めて実施計画書を作成したときの様式です。様式は毎年改善していますので変わっています。 重点プロジェクトの位置づけがあるだけでなく、来年からは総合戦略のロゴのようなアイコンを位置づけて分かりやすくしていこうと思っています。
事務局	《資料説明》
委員長	ありがとうございます。今ご説明いただいたのが現在のしくみで、これをどう変えていくかということになります。これから残りの時間ご議論いただく論点いくつかございますが、１つは資料右側の３つについてご議論いただきたいと思います。 ①事務事業の更なる改善効率化に事務事業評価のしくみを発展的に見直す、実際に改善効率化に繋げる為にはどう変えていけばいいのか。 ②廃止、休止が今のところ出来ていない。廃止や休止に出来るしくみにするにはどうしていくか。 ③ビルドの部分、チェックした上でアクション、プランといったビルドの部分にどう結び付けていくのか。 プラスアルファで副委員長から出していただいた論点の部分、例えば森や林をどうするのかという議論であったり、310 ある事務事業についてど

	う優先順位を付けて評価するのか、また議会との関係性の部分も論点として必要なのですが、これは改めて議論するとして、とりあえず①、②、③について順番に自由なご意見いただけたらと思います。 まず1番目、内部評価の改善項目を実現に繋げる仕組みとして、今までの議論を踏まえてどうすれば良いか、どんなことが良いかということ、是非ご自由にご意見を賜りたいと思いますがいかがでしょうか。
副委員長	先ほど説明してもらったのですが、わからないままになってしまい、確認させてもらいたいののですが、資料3の様式の流れは何月頃にやっていますか。
事務局	流れから説明しますと、最初の緑の計画の調書はだいたい6月に作りまして、次の青い方は年度末、大体2～3月にかけて担当課が行います。ただ、初年度だけは6月当初に作っています。次にP.4ですが、「適正とはいえない」等といった委員会意見は8～9月に行っています。評価結果を基に、下の担当課方針は主に担当課と事務局でやり取りして方針を考えています。それから10月中には市長にまとめて報告しています。 翌年度に入り、第1回目の外部評価委員会の時に「前年度に一部見直し」、「適正とはいえない」といった事業の報告をしています。その報告はP.6の資料です。前年度は担当課方針の具体的な内容まで入っていないので、取組方針、いつ頃やるのかなど具体的内容を担当課からヒアリングし、事務局が報告しています。その後、平成30年でいいますと、8事業が次年度も外部評価にかけます、というのが外部評価委員会で決められます。また、昨年度の第1回（次年度）にその8事業を説明しているのがP.9の資料となっています。
委員長	P.4、P.6、P.9は年度が違えどフローでいえば同じところですね。P.4を改善して平成30年度がP.6で、30年度を更に改善した令和元年のがP.9ということですね。ありがとうございました。いかがでしょうか。 実際の改善効率化に繋がっていない理由というのが、評価項目が悪いのかフローチャートの流れに問題があるのか。どうなのでしょうね。
副委員長	予算がなければ事業が出来ない訳ですから、予算への反映というか、チェックがあれば解決はしますよね。外部評価で廃止なり縮小なりの評価を出して、予算と連動すれば、廃止・休止の仕組みの後押しになると思います。
委員長	外部評価で「予算は付けません」と決定をすればということですか。
副委員長	そうです。縮小と評価したら財政が予算を半分にするとかです。事業毎に予算書に評価結果欄を設け、例えば、廃止、完了の場合は全額カットにする等、行政評価フローに予算を加えることで、事業の制御も財政で出来る訳です。

委員長	賛成です。選挙で選ばれた訳でもない外部評価委員会が何故そこまで権限を持つのだと言われない為にも、外部評価で出したものを庁議レベルで最終決定していただいて、財政課が予算削減するなど、フローチャートにもう1個つけるイメージなのです。外部評価の次に庁議レベルがあって、それを基にして財政課が予算を付け直す、そうすれば実効性は保たれますよね。
事務局	そのようなプロセスで行政評価を実施していなかったのは事実です。ただ前回の外部評価委員の方々も、市長への報告を予算査定が始まる前には行うということで、市長と副市長への報告は、10月中に行っていました。きついスケジュールではありましたが、予算に反映して頂こうという観点で行っていました。
副委員長	3年で改善されていないのが8事業。間に合わないことはないです。次の年、その次の年で出来る訳だから。
委員長	報告はしたけれど、予算には反映されていないということです。
事務局	財政担当では、予算査定する前段階で外部評価の報告書を確認し、指摘されている事業については担当課に聞きながら、厳しく査定はしています。 ただ、担当課の対応方針など、今後はPRを行いやっていきますと意見をされて予算を上げてきた場合などは、財政課としてこの事業は本当に効果あるかというのは質問をしているのですが、なかなか予算を切れない実情があって、様子を見ましようとなり、厳しい状況です。
委員長	というのが今までの問題ということですよね、論点1がある訳であってそれをどうすれば良いか。
委員	「適正とは言えない」という言葉が、直せるという解釈も出来ます。どうにでも言い訳出来てしまいます。適正ではないというのは、本来もう少しきつい意味合いをもつ言葉だと思うので、「終了が望ましい」という評価も作ってしまい、短期的か中期的かはわかりませんが、その方向性にしなさいという明確な方針や意思を出すというのもあるのかと思います。
委員長	それは②の評価項目の話になってきますね。①と②は関連していると思います。
副委員長	評価結果は何種類あるのですか。
事務局	3種類です。適正とはいえない、一部見直しが必要、概ね適正である。
委員長	他の自治体で上手く事業を廃止に繋げている所を見ると2つあって、1つは廃止・終了というかなり強い言い方の項目があるというところ。2つは、最終的判断が外部評価委員会の上のレベル。そこが多分強い意味で廃止に結びついている気がするので、その2つを稲敷市に導入することが検討されてもいいのかなというのが、今までの議論踏まえるとしてきます。

副委員長	議会との関係を考えることが、休止・廃止の手続きには検討が不可欠だと思います。
委員	話が戻ってしまうかもしれませんが、横須賀市の議会との関係についてもう少し調べてみるといいと思います。形骸化してしまっているのか、議員の理解が得られるようなものなのか。横須賀市の事例が、議会との関係性の点では使えるのかなと思います。
委員長	議会との関係については、稲敷市でも他自体の事例を比較して考えてみるのは良いことだと思います。
副委員長	議会はプライドをもって、車の両輪の1つとしてやっているという思いが根底にあります。
委員長	今おっしゃったことをやっているところはあたりしますか。
事務局	守谷市の議会自体が事務事業評価しているのがあるので、それが近いかもしれません。
委員長	議会との関係については継続的に考えてみましょう。 議会以外の部分で①の改善効率化に繋げる為に何か意見、アイデアがありますか。評価項目は考えたいですね。他の市町村の事例見ても、もう少し強い言い方で廃止とか言っています。前回の議論では、廃止とすると、かなり抵抗感が出てくるので、終了とか完了という含みも持たせた言い方も出来ないか。多分3択ぐらいで、増やすか現状維持か減らすかというところだったと思うのですが、それが明確に出るような選択肢を提示する必要はある気がします。いかがですか、この辺りも含めて。
副委員長	「廃止」とか「完了」を入れた方が良いと思います。ただ、諸刃の剣だから、出来ないのに入れるというのは自信がなかったのが前回入れなかったのだと思います。今度は不退転の決意をもって入れるというつもりで入れないと。入れるならば出来るかどうか裏付けがないと。
委員長	もう1つあったのが、前回お示しいただいた他の自治体の例だと、内部評価でも廃止、外部評価でも廃止みたいな感じで選択肢が内部評価の部分と外部評価の部分と庁議のレベルという形でそれぞれの段階でありましたよね。今のところ稲敷市では外部評価では3つの選択肢が出ていますが、内部評価では出ていないのですか。
事務局	内部評価では廃止とする例はありました。
委員長	イメージとしては、P.3のアクション部分ですが、担当課判定と内部評価判定と外部評価判定があって、全部で廃止、最後の庁議レベルで廃止と4つ並ぶと相当な説得力だと思う。内部も外部も庁議レベルで廃止と言っているからこれはもう廃止でしょうという、そういうのが示せる評価項目だといい気はします。
副委員長	前回私がお配りした資料、県の外部評価書を稲敷市は活用しています。

	しかし、県の施策事業評価のところでの7種類の方向づけ、拡充、縮小、見直し、現行どおり、休止・廃止、統合、完了については、このうちの3種類を選んだということは、そこまでやれるという自信がなかった裏付けなのかと思いました。
事務局	当時、ある程度事務局でたたき案を出したのですが、前回の委員長含め外部評価委員の中で話を練り、現在の評価である3種類にしております。
委員長	今年度は2月までに議論して決めるということですよ。もちろんその結果やっぱりこの3つということになるかもしれませんが。
事務局	委員長が仰った、最終的に庁議ということになると、どういう風に具体的に実現化するのかということです。首長が認識しないと庁議で取り扱ってもらえません。
委員長	この委員会の位置づけ的な問題になってくるのですが、最終的に2月に事務事業評価の仕組みを市長に答申するという意味ですね。答申を基に実際にどうするかは市長判断になるかと思います。我々が答申を出す時は、庁議レベルを入れた方がよいというのは出せると思いますが。
副委員長	外部評価委員の決定では事実上出来ないと思います。事務局があって、色々情報を提供してもらい、出来るかどうかを判断した上での答申、報告書になると思います。事務局を置いておいて我々だけで決めましょう、では困るでしょう。その辺りは意見の調整はしておかないと。
委員長	そうですね。いかがでしょうか、②にも関わることになっていますが。③はどうですか、ビルドを意識した計画サイクルということなのですが。
委員	委員長の懸念されている、外部評価委員がどこまでスクラップ、評価をしてビルドに繋げるか、評価委員の役割はどこまでと区切りをつけるべきかが1つのポイントなのかなと思っています。
副委員長	それは評価方針にも関わりますね。拡充や新たに統合とか、次のステップも意見として出せることが今までなかった訳ですから。外部評価委員会バージョン2か、今までと同じで良いのかという話です。
委員長	「拡充」を評価項目に入れることは、私は検討していいと思います。それを踏まえて、プランやアクションのところで、外部評価チェックで拡充と言っていますがどうしましょうかと揉んでいただいて、参考にさせていただく形ですね。
副委員長	新規でこんな事業立ち上げたらどうですかというのはちょっとやり過ぎだと思います。外部評価委員会の役目とは違います。それは皆さんで考えて、新しい事業を立ち上げて、進捗状況の類を我々に意見を求めてくるようになる。ただ拡充的に今ある事業にこういう視点の物も入れたらどうですか、というのはあるかと思います。
事務局	通常の評価項目とは別に、こういう視点でという意見を出していただくということでしょうか。

副委員長	まるっきり新しいものでなくても。
委員	ネガティブな意見だけでなく、ポジティブな意見も。
委員長	それこそ、この段階で書けるといいですね。外部評価としても上手くいっているし、とても大事だからもっと拡充を求めたいみたいなことを書いて良いと思います。そういった選択肢は出来れば盛り込みたいと思います。
事務局	ビルドに繋がる、参考となるような、外部評価委員会としての意見を付せると良いということですね。現状ですと、資料3のP.4に委員からの意見を抜粋して入れています。そうではなく、委員会として次年度に向けての方向性の意見ですというイメージですか。
委員	今の評価項目で一部見直しが必要となった時に、基本的にネガティブになっているものを、もっとやったら良いのではないかという積極的な評価もそこに入れられないかということでしょうか。
委員長	ちなみに、県の評価7項目は何でしたでしょうか。
副委員長	拡充、縮小、見直し、現行通り、休止・廃止、統合、完了。
委員長	拡充的なところですね、我々外部評価委員会が言っているのは。

(3) 全体のまとめ

委員長	さて、そんな感じで、そろそろ時間になって参りましたが、こういった議論も出来れば1, 2回くらい続けて形にしていきたいと思っております。今日中にぜひこれだけはというご意見はございますか。
委員	副委員長の試案の方については。
副委員長	1つ目は、外部評価を実施するためにも広い視点で考えた方が良いのではないかと考えています。2つ目は350の具体的取組の洗いだし、これは出来るということで問題ないのですが、あとはローリングするかということですね。県の場合はローリングしているのですが、それはかなり時間が必要なので報告書みたいなものにまとめる、予算に反映させるのは後ろが決まっているのでそれは難しいかなと思います。ただ、重要な事業についてはローリングした方が良いです。1回限りで終わってしまったら、事業の推進状況のチェックが難しいと思います。あとは書いてある通りで読んでいただければと思います。 それで、3種類の優先すべき事業、これはローリングするということで考えていますが、重点プロジェクトと行革と総合戦略の関連事業、先ほどでいえばⅠの②とⅡとⅢですね。木でいえば68, 18, 49の事業についてはローリングした方が良いと思いますが、やはりこれでも数が多いのでどうかという気がします。優先事業は政治判断なので、市長なりの了解を取った方が良いと思います。基本計画としては、木の部分としては310

	(350) の具体的取組。これは全部出来ないで、森とか林の優先順位の①から③まで森として、木の部分が133。予算は大切に、実効性あるものになるのは外部評価委員の意見だけでなく、予算の裏付けですから、その辺の反映もきちんとしてもらった方が良いです。あとは総合計画審議会、行革懇談会等は、今後作る可能性がある場合は外部評価委員の委員長なりに入ってもらって反映した方が良いと思います。 最後に議会との関係ですね。車の両輪である議会は尊重しなければならないので、大変ですがよく上層部と相談して。出資団体調査特別委員会の事例も記載しています。別紙の参考資料を見てももらいますと、平成18年9月に出資団体調査特別委員会の提言をもらいました。この中で四角の枠内のように、精査団体・精査会計、精査団体以外の出資団体・会計、つまり特別会計です。一般会計ではなく注意しなければならないことについては出資団体等で報告して下さいというもので、どちらかという行政が議会にお願いしたような感じです。その中で毎年改革工程表を作っています。下の1というのが対象の団体なり会計で、P.3は取手の競輪事業を報告していたのですが、公営競技ですね。毎年1億程度を一般会計へ繰り出すことを目標にやっております、収益の確保と従業員、従事員の削減などを報告しているのです。P.4は企業誘致の関係です。江戸崎工業団地の事例で、稲敷市に関係あるかと思って作ってみました。矢印の中が出資団体に出した計画です。実績が下を書いてあります。例えば、H21～H25は3ha分譲しますという計画と、14.4ha分譲しましたということです。このように毎年報告しています。国の方の行革も改革工程表のようなものを作ってやっています。
委員長	ありがとうございます。非常に重要なご指摘、今日議論出来なかった指摘をいくつかをいただきました。特に評価の工程表部分とか、イメージは、はっきりさせなくてははいけません。ローリング方式の話もございましたが、310と数が多くあって、先程ご説明いただいた77事業、1年間でも38時間程かかるみたいな話もあったので、この辺りが難しくて優先順位の話になってくる訳です。もう1つ、今回検討出来なかったポイントで3つの計画が統合されたことで計画サイクルに合わせた複数年度の行政評価サイクルの検討、ここが、副委員長がおっしゃった評価の工程表に近い部分があるかと思います。事務局お手数なのですが、今日の議論を踏まえて工程表を意識した、たたき台を次回お示しいただければと思いました。
委員	副委員長の資料は重要な指摘がありました。私が思ったのは予算等の部分、行政の組織の中にいらっしゃる方々が実効性をもたせる為には人とモノと金の部分とどういう風にリンクしていくのかというのは考えなければいけない課題と思いました。
委員長	お時間ですので、今日も非常に多岐に渡る様々な活発なご議論ありがとうございました。

	うございました。今回議論ふまえた上で次回案としてたたき台お示しいただければと思います。
--	---

(4) その他

委員長	(4) その他でありますが、事務局で何かございますか。
事務局	次回の日程はいつぐらいが良いでしょうか。
委員長	前回と今回が2週間と若干早かったのですが、例えば、まとめた上で次回資料を作成いただくスケジュール感を踏まえるとどのくらいでしょう。
事務局	12月中旬以降がありがたいです。
委員長	では18日ということで、時間は14時という形でお願い出来ればと思います。事務局お手数ですが、まとめと資料の作成をお願いいたします。以上、本日予定していた議事については全て終了いたしました。他に何かご意見、ご質問はございますか。 ないようですので、本日の第3回外部評価委員会の会議を閉会し、進行を事務局にお返しします。ありがとうございました。

5. 閉会

事務局	長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。これをもちまして第3回稲敷市外部評価委員会を閉会とさせていただきます。本日はご協力ありがとうございました。
-----	--

以上